

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)	◎	百貨店（売場主任）	・10月の売上は本格的な回復基調にある。緊急事態宣言の解除に加え、急激な冷え込みもあり、衣料品の売上は大きく前年を上回っている。食料品の需要が外食に流れていることもあり、生鮮品がやや苦戦しているが、総菜や和洋菓子などは前々年比でも大きくプラスになりつつある。人の動きが本格化してきた印象を受ける。
	◎	百貨店（外商担当）	・コロナ禍による買い控えの反動で、一気に好転する気配を感じる。
	◎	百貨店（マネージャー）	・国内市場は、行動範囲の拡大や営業時間の延長により、身近な消費の緩やかな改善が進む。実際に、目的のはっきりした消費として、年末年始のクリスマスケーキやおせち料理の予約販売は、例年よりも早い動きで好調となっている。
	◎	百貨店（服飾品担当）	・クリスマス商戦が始まる11～12月への客の期待感は強く、国内消費は回復の土壌が固まりつつある。ギフト市場での消費を期待して、サプライヤー各社も商材を用意し始めている。また、長らく対面での接客ができなかったコスメ関連では、ようやく対面型の接客を再開できるめどが立ったため、年末に向けて売上の回復が予想される。
	◎	家電量販店（店員）	・年末から年明けにかけて、景気は良くなると思いたい。実際には新型コロナウイルスの感染状況次第であり、予想が立たない。
	◎	その他専門店〔医薬品〕 （管理担当）	・緊急事態宣言の解除や、新型コロナウイルスの新規感染者数の大幅な減少により、人の動きが大幅に増える。行動時間も増えることで、大きく回復することが予想される。
	◎	観光型旅館（経営者）	・G o T oキャンペーンが再開されれば、更に広域で人流が増え、様々な業種を巻き込みながら景気回復への流れが進む。そのためには、ワクチンパスポートを活用するなど、新型コロナウイルスの感染対策を講じながら、ウィズコロナの対応を進めていく必要がある。
	◎	都市型ホテル（フロント）	・府独自のキャンペーンの開始が近々と聞いている。また、年明けにはG o T oキャンペーンも再開すると予想される。スポーツやイベントでの人数制限の緩和もあり、需要は回復に向かう。
	◎	タクシー運転手	・10月25日からは、酒類の提供などの規制がなくなるため、客の間にも少しずつ安心感が戻ってほしい。
	◎	その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕 （企画担当）	・緊急事態宣言の解除を受けて、外出意欲は上向いていく。
	○	商店街（代表者）	・外出を控える習慣が定着している。すぐにはコロナ禍前の動きに戻らないが、少しずつ回復することを期待している。
	○	一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・衆議院選挙によって人が集まる機会が増え、新型コロナウイルスの感染リスクが高まっているが、全国的には新規感染者数が増えていない。ワクチンの効果が出てくれば、人が動き始め、消費の増加につながる。
	○	一般小売店〔花〕（経営者）	・緊急事態宣言中に、閉店や時短営業を行っていた店舗が、通常の営業を再開し始めており、発注が増えている。このまま新型コロナウイルスの感染が収束していけば、景気回復が見込まれる。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・緊急事態宣言の解除に伴い、前受注も増えつつある。
	○	一般小売店〔野菜〕（店長）	・このまま新型コロナウイルスの感染が収束に向かい、緊急事態宣言も再発出されなければ、年末商戦に向けて飲食店が動き、当店でも品物が動くと思える。
○	一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・コロナ禍がやや収束傾向になっているが、このまま落ち着き、良い年末商戦となることを期待している。	
○	百貨店（売場主任）	・緊急事態宣言が解除され、地元客の来店は少しずつ戻っているものの、遠方からの観光客はまだまだ少ない。レストラン店舗は営業時間の制限がなくなったにもかかわらず、21時以降はほとんど客がいない。まだまだ客の新型コロナウイルスに対する姿勢は変わっていない。	

○	百貨店（売場主任）	・新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、このまま沈静化が続いて経済が回れば、少しずつ良くなると予想される。ただし、以前の売上に戻るには時間を要するほか、完全には元のライフスタイルには戻らない。また、百貨店側も痛手を被っているが、それ以上に悪化している取引先が多く、厳しい状況はしばらく続く予想される。
○	百貨店（企画担当）	・このままコロナ禍が落ち着いてくることを願っている。
○	百貨店（サービス担当）	・10月25日から、飲食店の営業時間がほぼ従来どおりに戻ったほか、今年は寒気が早く到来したことで、季節商材を中心に購買意欲が高まり、売上の確保につながると予想される。
○	百貨店（商品担当）	・ワクチン接種の拡大で、新型コロナウイルスの感染がひとまず抑制されている。経済が少し動き始めているが、現状をみる限り、冬のボーナス商戦は大きな伸びが期待できない。衆議院選挙の期間中は抑制される消費が、来月以降の新内閣による政策で、どこまで活性化するかが当面のポイントとなる。
○	百貨店（販促担当）	・ワクチンの接種率が上昇し、新型コロナウイルスとの共存政策が機能し始めることを期待している。2年近く続いた我慢の反動で、慎重な行動を続けながらもショッピングを楽しむ動きが活発化すると見込んでいる。特に、家の外での消費は長らく低迷していた分、購買意欲が高まると予想している。
○	百貨店（外商担当）	・希望者へのワクチン接種がほぼ完了し、更に3回目の接種も始まっていることが予想される。それに伴い、新型コロナウイルスの感染がかなり抑えられ、消費マインドが改善するため、外出用の婦人服や紳士服の販売が増えてくる。
○	百貨店（店長）	・実証実験が成功し、旅行やイベント、年末年始の帰省などで外出する機会が増えれば、更に買上は増える。ただし、百貨店のアパレル売上の減少などで、売上の構成は以前とは変わっている。高所得者の特選洋品などの買上も増えるなか、今後はデパ地下や食品に特化した店作りが中心になっていく。
○	百貨店（売場マネージャー）	・3回目のワクチン接種の開始も想定されるなか、現状の新型コロナウイルスの新規感染者数をみると、人流は増えると予想している。ペントアップ需要にも期待できると感じており、景況感は改善が予想される。
○	百貨店（マネージャー）	・新型コロナウイルスの感染が収束しつつあるため、客の大半は元の購買行動に戻ると予想している。また、国内の観光客も戻りつつあるため、入店客数もかなり回復が進んでいる。さらに、今年の冬は冷え込みが予想され、前年に買換えを控えていた単価の高いアウターなどに動きが見られる。
○	百貨店（販売推進担当）	・3回目のワクチン接種や、経口薬の実用化などの前向きな要素が増えれば、緩やかながら回復が進むと予想される。更に活発化するためには、政府の景気浮揚策が必要となる。
○	百貨店（宣伝担当）	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が抑えられれば、年末のイベントによる売上の増加が見込まれる。前年とは違い、取引先も冬物商材を増産する傾向にあり、ペントアップ需要を取り込むための施策を立てている。
○	スーパー（経営者）	・緊急事態宣言の解除や、G o T oキャンペーンなどで、幾分の回復があると期待している。
○	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、年末年始に向けて、外出が増えると予想される。飲食関係や、観光地などでの需要が増えるほか、それに伴う小売関連の需要も見込まれる。
○	スーパー（店長）	・ワクチン接種が進み、緊急事態宣言や時短要請も解除されるなど、新型コロナウイルスと共存しながらも、日常の生活に戻りつつある。売場でも、ここ1年は余り動きがなかった、トラベル関連や外出着に動きが出てきている。
○	スーパー（店長）	・飲食店も営業が活発になり、経済は回復に向かう。それに伴い、スーパーなどの小売店も控えていたチラシの内容を元に戻すことが予想され、経済全体が回復に向かう。
○	スーパー（店長）	・コロナ禍がひとまず収束に向かい、行楽やレジャーなどの需要が高まるため、外出用の商品の需要が増える。特に衣料品では、婦人関連の売上増加が見込まれる。

○	スーパー（経理担当）	・新型コロナウイルスの感染状況がこのまま落ち着けば、年末に向けて、これまでため込んだ消費意欲が爆発する可能性が高い。例年以上に高額商品や高付加価値品が動くと期待される。
○	コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言が解除され、ワクチンや治療薬で新型コロナウイルスの感染が抑えられれば、テレワークも減少する。今後は、昼間の来客数が今年よりも50%、夜間は80%ほど回復する見込みである。
○	コンビニ（経営者）	・まだまだ外出の自粛が多いと感じるため、年内は今の状況が続くそうである。
○	コンビニ（経営者）	・日中の労働人口は元に戻らないことが危惧されるが、観光客は少しずつ戻ると予想される。周辺ホテルの宿泊客数の増加に伴い、来客数の増加が期待される。
○	コンビニ（店員）	・正月休みでの旅行などで、来客数が増えると期待される。
○	コンビニ（店員）	・緊急事態宣言が解除され、客は様子を見ながら動いていると感じるほか、周りの店舗も営業の再開で少しずつ活気が出てきている。閉店した店も多いなか、近隣のホテルは本格的に再開したようで、繁華街にも近いため、人流の増加が期待できると感じる。
○	衣料品専門店（店長）	・今後は12月頃に新型コロナウイルスの感染第6波の到来が懸念されているが、今は新規感染者数もかなり減っている。3回目のワクチン接種の計画もあるため、来客数、売上共に増えることが予想される。
○	衣料品専門店（営業・販売担当）	・来客数も少なく、新しいスーツは不要という客が多い。
○	家電量販店（経営者）	・物流が回復し、コロナ禍がある程度落ち着けば、消費の喚起が期待される。
○	家電量販店（店員）	・世の中の制限が解除され、巣籠りのストレスから以前の生活に戻ろうとするため、これから少しずつ経済に動きが出てくる。
○	家電量販店（企画担当）	・朝晩が冷え込み始め、年末商戦に向けたテレビや冷蔵庫の前倒し需要が動き始めている。今後は、ボーナス支給後の需要に期待できる。
○	家電量販店（営業担当）	・緊急事態宣言が解除されて、景気が上向くことを期待している。
○	家電量販店（人事担当）	・今年は厳冬となる予想であり、家の中で快適に過ごせる暖房器具の販売増加が期待される。また、パソコンの新OSの発売などで、パソコンの買換えが進むことも予想される。
○	その他小売〔インターネット通販〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染対策の緩和により、購買意欲が高まってくる。また、控えていた対面販売に期待する客も、高齢者を中心に多くなる。
○	高級レストラン（スタッフ）	・予約件数だけでなく、1席当たりの予約人数も増えてきた。今後も新型コロナウイルスの感染対策を続けながら、営業していきたい。
○	高級レストラン（企画）	・新型コロナウイルスの感染状況の落ち着きや、Go To Travelキャンペーンの再開、自治体による観光支援事業の開始により、状況はやや好転すると予測している。
○	一般レストラン（店員）	・ワクチン接種者が増え、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているため、今後は外食もしやすくなってくる。
○	一般レストラン（企画）	・まだまだコロナ禍の影響は続くが、営業時間が元に戻れば、良くなってくると予想している。10月以降、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少している根拠を明示してほしい。
○	その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減っているため、飲食店などの来客数がやや増加している。
○	観光型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が収束に向かっている。現状ではすぐに好転する兆候はみられないが、先行きには期待している。
○	観光型ホテル（客室担当）	・ワクチン接種が増えた影響で、回復の動きが進む。
○	観光型旅館（経営者）	・今の状況が続けば良くなると予想される。

○	都市型ホテル（スタッフ）	・個人客や、中規模の団体による会食は戻ってきつつあるが、緊急事態宣言の解除が間に合わず、多くの宴席がキャンセルとなっている。また、現在の要請内容にはあいまいなところがあり、スムーズに案内や提案ができない状況である。新年互例会などでの立食パーティーの予約が残っているものの、タイミングが合わなければキャンセルとなり、大きな損害が出ると予想している。
○	都市型ホテル（管理担当）	・酒類の提供制限が解除されたことで、年末年始の企業による宴席などの行事が再開する。
○	都市型ホテル（販売促進担当）	・忘年会や会議などの宴会の問合せが増えている。ただし、新型コロナウイルスの感染第6波が発生する恐れもあり、取りあえず仮予約を入れる客や、他の人は宴会を始めているかどうかを確認する問合せも多い。全体的には、宿泊やレストランも徐々に動きが出てきた印象を受ける。
○	都市型ホテル（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染防止のほか、海外からの入国制限も続いているため、以前の状態に戻るまでには時間を要する。
○	都市型ホテル（管理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数がこのまま減少すれば、外食や旅行に活気が戻ってくる。ただし、不安材料はまだ多く、原材料価格の高騰や海外客の回復時期など、まだまだ予断が許されない状況である。
○	都市型ホテル（客室担当）	・秋の紅葉シーズンが到来し、Go Toキャンペーンが再開するまでの観光需要の拡大に向け、京都府民限定での観光支援が行われる。人の往来が増えることで、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されるが、現状は新規感染者数が減少傾向にあるため、景気の回復が期待される。
○	旅行代理店（店長）	・Go To Travelキャンペーンの再開が予想され、具体的に発表されれば、今よりも申込みが増える。
○	旅行代理店（役員）	・県をまたぐ旅行の再開による、需要の回復が予想される。
○	旅行代理店（支店長）	・県内での旅行割引が発表されるなど、今後Go Toキャンペーンに代わる政策が出てくれば、客の旅行マインド自体は高いため、改善につながってくると予想される。
○	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少が続き、緊急事態宣言も解除になった。これから飲み会のシーズンとなるため、客が徐々に増えることを期待している。
○	通信会社（社員）	・地域経済が大きく改善する可能性があり、その転換点を逃さず、更なる利用の拡大につなげていきたい。
○	通信会社（社員）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、冬モデルの商品も発売されるので、冬商戦に期待したい。
○	通信会社（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が収束してきており、経済の回復が進むと期待している。
○	テーマパーク（職員）	・やはり緊急事態宣言の解除による影響が大きい。旅行などの移動に関する自粛の必要がなくなったことは、物理的、精神的なストレスの大幅な緩和につながっている。今後はさらに、経済活動が活発になるような政策を打ち出してほしい。
○	観光名所（経理担当）	・9月末で緊急事態宣言が解除されたが、ここ1か月で目立ったリバウンドは発生していない。ただし、今後は社会全体が経済活動を優先する形に移行することが予想される。
○	観光名所（企画担当）	・緊急事態宣言が解除されたが、現状では来場者は増加していない。新型コロナウイルスの感染第6波の発生も懸念されているが、このまま徐々に回復してほしいと願っている。
○	遊園地（経営者）	・緊急事態宣言の解除や、行動制限の段階的な緩和により、緩やかながらも消費行動に回復の兆しが感じられる。回復が緩やかな要因の1つには、世代間の行動の差がある。若年層は早々に活発な動きが始まっているが、ファミリー層などのほかの世代は慎重な動きが続いており、現時点では本格的な回復には遠い状況である。
○	競輪場（職員）	・年末年始となり、例年は客単価が上がる傾向となるが、新型コロナウイルスの感染状況次第でどうなるかは分からない。
○	競艇場（職員）	・電話投票やインターネット投票は引き続き好調であり、高い水準で安定している。年末にかけてSG競走などのビッグレースが続くため、売上にも期待できそうな気配である。コロナ禍が落ち着けば、本場の売上も向上することを期待しながら、動向を見守っている。

○	その他レジャー施設 [イベントホール] (職員)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少や、治療薬などの実用化で、人の活動が活発化する。
○	美容室 (店員)	・今の状態が続けば良くなる。
○	その他サービス [学習塾] (スタッフ)	・緊急事態宣言の解除により、新型コロナウイルスの感染に対する不安も軽減する。今後は入会を検討する人が増えてくると予想される。
○	住宅販売会社 (経営者)	・新型コロナウイルスの感染第6波が発生するまでは、徐々に上向くはずである。ただし、発生が早まれば、回復も遅くなると予想される。
○	住宅販売会社 (総務担当)	・客の動きが活発化するにつれて、契約件数も増加する。
○	その他住宅投資の動向を把握できる者 [不動産仲介] (経営者)	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたため、経済活動は緩やかな回復が進む。ただし、感染第6波の状況にも左右される。
○	その他住宅 [住宅設備] (営業担当)	・本格的な冬を迎え、新型コロナウイルスの感染第6波の発生が懸念されるものの、例年どおりの推移となれば、休む暇がないほど忙しくなる。
□	一般小売店 [時計] (経営者)	・今は新型コロナウイルスの新規感染者数も落ち着いていて、街全体に活気戻る雰囲気が少しあるが、冬に向けて感染第6波が到来するとの見方が多い。この2年間の経験から、油断できないという感覚を持っている客も多く、当分は今の状態が続く。明るく遊び回る雰囲気ではないため、この暗さはまだまだ終わらない。
□	一般小売店 [呉服] (店員)	・若い客よりも40代以上の客が多いため、まだ外出を控える傾向が強いことがマイナス材料となっている。
□	百貨店 (売場マネージャー)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に加え、ワクチン接種率の上昇、緊急事態宣言の解除などで、人流も改善傾向にある。今後は来客数の増加で景気の回復が期待できるが、感染第6波の到来も予想されるため、完全に良くなるとはいえない。
□	百貨店 (営業推進担当)	・新型コロナウイルスの感染第6波が発生する恐れもあり、以前の水準に回復するまでには至らない。
□	百貨店 (マネージャー)	・新型コロナウイルスの今後の感染状況が読めないが、感染第6波の発生も予想されているため、今の状況が大きく変わることはない。また、年末年始商戦でのクリスマスケーキやおせち料理などの予約受注は好調なため、引き続きイェナカ需要は続く予想される。
□	百貨店 (特選品担当)	・これから状況が良くなればよいが、新型コロナウイルスの感染第6波の懸念もあり、正直なところ先行きが見通せない。もう少し今の状況をしっかりと見極めていきたい。
□	スーパー (経営者)	・衆議院選挙が終了し、政治リスクも少なくなった。中間決算の発表で、業績改善となる企業が増えるなか、更なる景気対策や新型コロナウイルスの感染対策がしっかりと実施されることで、クリスマス以降の大型商戦も売上の増加が期待される。
□	スーパー (店員)	・鍋料理の材料は単価が下がっているため、動きは今と変わらない。ただし、近隣に24時間スーパーがオープンするため、その影響次第でどうなるかは分からない。
□	スーパー (開発担当)	・原油価格の高騰や、様々な商品の相次ぐ値上げにより、景気が良くなるとは思えない。今回の衆議院選挙でも具体的な景気対策ははっきりしないため、景気が良くなる可能性はほぼない。
□	コンビニ (経営者)	・中小企業や大企業が抱える今までの悪影響が、2~3か月で解消するとは考えられない。これからは、人を雇用せずに無人で対応するための投資が進み、人の雇用もこれまでとは異なる形になると予想される。
□	コンビニ (店長)	・外出の自粛で増えた家飲み需要が減る代わりに、会社への出勤が増えることで人の流れが良くなる期待はあるが、全体としては横ばいとなり、良くはならないと予想される。
□	コンビニ (店員)	・社会全体では、物価が上がったり、新型コロナウイルスの影響もあるが、年金生活の高齢者の客が多いため、当店は余り変化がない。
□	衣料品専門店 (経営者)	・消費者は新型コロナウイルスの新規感染者数に敏感であるため、年末までは消費の低迷が続くと予想される。

□	乗用車販売店（経営者）	・インフルエンザの感染拡大の状況次第である。
□	乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきて、以前の日常が戻りつつあるが、これから冬になり感染第6波の発生も懸念されるため、まだまだ完全に消費が戻るまでには至らない。また、衆議院選挙も控えており、誰もが選挙後を見据えたいという気持ちを持っている。
□	乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの影響もあって半導体が不足し、新車の販売ができないため、先行きは良くない。
□	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・緊急事態宣言が解除され、行楽シーズンでもあるため、週末を中心にガソリン販売量の増加が期待されるが、原油価格の動向が不透明であるため、先行きの景気判断は難しい。
□	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・緊急事態宣言の解除後は、人出は増えてきている。ただし、宝飾品などは元々買い控えの対象ではないため、売上の増加にはつながらない。
□	その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・3回目のワクチン接種が完了し、経口薬が開発されるまで、あと1年は今の状況が続く。
□	その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・今月のような、例年どおりの販売が続くと予想される。
□	一般レストラン（経営者）	・ゴールドステッカーなどの基準を定めても、飲食店の利用者の不安が抜けない間は、飲食店の景気回復の見込みはなかなか立たない。また、協力金がなくなるほか、新型コロナウイルスの感染第6波への備えなど、飲食店の経営に対する不安はまだ続きそうである。
□	その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・新型コロナウイルスの感染は落ち着いているが、急に売上の増加にはつながらない。
□	旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染第6波の発生を警戒するマスコミの報道が、消費や経済活動を鈍化させている。
□	ゴルフ場（支配人）	・今月も来場者数は前年比で増加しており、今後も増加傾向が続くと予想される。
□	その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・Go Toキャンペーンの再開など、大型の経済対策が期待される一方、現実的に新型コロナウイルスの感染第6波への懸念も拭えない。
□	その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・大阪府の緊急事態宣言は解除され、プロ野球の公式戦での入場制限も緩和されつつある。今年は地元チームの躍進で、7年ぶりにクライマックスシリーズが開催されるため、今まで以上の来場者を見込んでいる。
□	住宅販売会社（従業員）	・しばらくは、新規マンションの販売状況は好調が続くと予想されるが、販売価格が上がってくることで、実需層の購入意欲がどこまで続くかが危惧される。
□	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・住宅展示場の持つ価値が、出展企業の間で変化しつつある。今までのような展示場主催のイベントで集客を伸ばす動きから、本当の実需客をモデルハウスの見学予約で集める考え方に変化したため、コロナ禍の影響は少なくなっている。
□	その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・新型コロナウイルスの感染状況の収束がプラスに働く一方、コロナ禍によって伸びた業界への下押し圧力も出てくるなど、期待材料と不安材料が混在している。
▲	一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・景気の持ち直しを期待したいが、ウイズコロナによる景気の低迷がこれから始まると感じる。
▲	スーパー（店長）	・食品の値上げで今後は販売の低迷が予想されるほか、衣料品も必需品だけの購入にとどまり、食品の減少のカバーは期待できない。今後は全体的な低迷が予想される。
▲	スーパー（企画担当）	・年末商戦を迎えるに当たり、前年は外出の自粛で旅行もできないなかで、内食の特需が発生した。今年は緊急事態宣言が解除され、人の流れも変わるため、前年比ではかなり厳しい年末商戦になると予想される。
▲	スーパー（企画担当）	・コロナ禍による自家需要がなくなり、日用品や園芸、自転車などの動きがコロナ禍前の水準に戻ってきている。今後はさらに、競合他社の影響で厳しくなることが懸念される。
▲	スーパー（販売促進担当）	・ワクチン接種が進み、コロナ禍対策の緩和が続けば、外食の需要が増え、中食や内食の需要が減る傾向が続く。ただし、全体的な景況感でみた場合、外食自体もコロナ禍前の状態には戻らず、景気は減退局面になると予想される。

	スーパー（社員）	・ 今後はコロナ禍の収束による外食需要の活発化が、スーパーには逆風となる。さらに、これまでのコロナ禍によって世帯の所得が悪化し、客の節約意識が強まることを懸念している。	
▲	コンビニ（店長）	・ 新型コロナウイルスの新規感染者数が増えて、まん延防止等重点措置の適用や、緊急事態宣言の発出につながりそうである。	
▲	コンビニ（店長）	・ 緊急事態宣言時に借りた資金の返済が始まるが、現在の売上で返済していくのは厳しい。	
▲	家電量販店（店員）	・ 食費、光熱費が上昇傾向にあるなかで、商品のモデルチェンジによる単価アップも進んでいる。収入が不安定な状況では、壊れていない商品の買換えは、やはり後回しにされることが避けられない。	
▲	乗用車販売店（販売担当）	・ 部品の供給不足は、世界的な問題と認識している。解消のめどが立たない限り、回復への転換は難しい。	
▲	その他専門店〔宝石〕（経営者）	・ 原油の不足や国際的な値上がりにより、家庭での電気、ガス代や、その他の物価が上昇し、景気が左右される。	
▲	その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・ ドラッグストアは新型コロナウイルスの感染が落ち着くにつれて、厳しい局面となる。今まで買物にしか出掛けていなかった分、休日はいろいろな場所に行くようになり、来客数も減少傾向となることが予想される。	
▲	一般レストラン（経営者）	・ 新型コロナウイルスの感染第6波の発生が予想されており、企業などは忘、新年会は控えると聞いているため、年末は厳しくなる。また、お金を持っている人は、Go Toキャンペーンの有無に関係なく、年末年始は旅行に行くと言われているため、来客数の増加は期待できない。	
▲	住宅販売会社（経営者）	・ まずは商品原価の上昇分を、販売価格に転嫁していくのが難しい。	
×	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・ 本格的な冬になれば、今は落ち着いている新型コロナウイルスの新規感染者数も、増えてくる可能性が高い。今以上に厳しい状況になるなど、これから先の明るい見通しは全く感じられず、むしろひどい不況となる不安がある。	
×	衣料品専門店（経営者）	・ 仕入先が商品を持っていない。	
×	乗用車販売店（経営者）	・ 売上が急激に悪化している。理由は仕入価格の高騰であり、商品は割安の物から売れていき、なくなれば売れなくなる。さらに、商品がなくなれば、当社の仕事も減っていく。	
×	乗用車販売店（販売担当）	・ 輸入車の生産が減っているため、販売できる車が全くない。この状況が落ち着くのは来春以降になる見通しであり、非常に厳しい。	
×	住関連専門店（店長）	・ 今秋は、いよいよ販売価格を上げなければならないほど、仕入れコストが大幅に上がった。商談件数は回復傾向でも、予算が合わずに失注する可能性が増えるなど、今後も売りにくい状況は続く。	
×	その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・ 失業者が増えているため、緊急事態宣言が解除されても消費は落ちたままである。	
企業動向関連 (近畿)	◎	木材木製品製造業（経営者）	・ 国内需要は堅調であるが、当社のような輸入品の卸売では、相手国の状況による影響も大きい。相手国でロックダウンなどが行われれば、必要な商品が入らず、売上も減少する。今はその状態であり、今後2か月は売上、利益共に減少する見込みである。ただし、2～3か月後には元に戻ると期待している。
	○	食料品製造業（営業担当）	・ ワクチンを2回接種した人も多く、新型コロナウイルスの感染対策を続けながら、経済を回していく方向にあるため、少し明るい兆しが出てきている。
	○	繊維工業（団体職員）	・ コロナ禍の状況次第ではあるが、ワクチン接種も進み、新型コロナウイルスの新規感染者数を抑えることができれば、景気は上向くと予想される。
	○	出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・ 各社の体力が余りないため、急激な回復は難しいと感じる。ただし、全く同じではないものの、徐々にコロナ禍前の状況に戻る気配を感じる。
	○	化学工業（経営者）	・ 先行きの受注額も、新型コロナウイルス発生前の水準に戻りつつある。
	○	プラスチック製品製造業（経営者）	・ 2～3か月後であれば、海外からの調達部品が入ってきやすくなっているほか、コロナ禍前の状況を取り戻せると感じられる。

○	窯業・土石製品製造業 (管理担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少傾向がこのまま続けば、身の回りの景気はやや良くなると予想される。経済も回していかなければ、今後は大きな代償を払うことになる。人流が増加傾向にあり、新型コロナウイルスの感染第6波は必ず発生するため、その事態を想定し、今のうちに更なる医療体制の構築を図る必要がある。一方、原油高や円安も懸念材料であり、今の状態が続けば、景気の先行きは厳しいと予想される。
○	電気機械器具製造業 (経営者)	・最近の景気は安定的に推移しており、半導体関連の好調が5～6年は続くと予想される。当社のように海外への出荷が多い企業にとって、現在の円安環境も追い風となっている。
○	電気機械器具製造業 (営業担当)	・緊急事態宣言が解除され、受注が増えてくることを期待したい。
○	その他製造業 [履物] (団体職員)	・まだコロナ禍が完全に収束したわけではないが、ワクチン接種も進んでいる。新型コロナウイルスの感染第6波が発生しないことを願い、経済が上向くことを期待している。
○	輸送業 (商品管理担当)	・緊急事態宣言の解除と、飲食店の営業が再開されたことで、酒類の売上が増える。
○	輸送業 (営業担当)	・来年の1月から、商品が順次入ってくる見込みのため、やや良くなる。
○	通信業 (管理担当)	・衆議院選挙の影響で、若干上向く。
○	金融業 (副支店長)	・外食が増えているほか、旅行などの動きが出てくるなど、経済は動き始めている。今後は飲食店や旅行関係の市場が回復していく。
○	金融業 [投資運用業] (代表)	・良くなるとしても、来年の春以降になりそうである。簡単にスイッチを切り替えて、一気にアクセルを全開にしても、消費マインドがついてくるかどうかは疑問である。消費する側も、コロナ禍の被害を被っているはずである。
○	金融業 (営業担当)	・コロナ禍の収束を願っている。
○	広告代理店 (営業担当)	・年末に向けて、更に若干の回復が進みそうであるが、今後のコロナ禍の状況次第である。
○	広告代理店 (営業担当)	・広告はWeb媒体、紙媒体共に、前月頃から前年の売上を上回っている。
○	経営コンサルタント	・新型コロナウイルスへの対応が、少しずつ実を結んでくる。今後はGo Toキャンペーンといった国の消費喚起策も出てくる。一時的な動きかもしれないが、やや景気が良くなると期待したい。
○	その他サービス業 [店舗開発] (従業員)	・ワクチン接種が更に進むほか、経口薬などの治療薬も、早ければ年明け早々には普及し始める。これに伴い、新型コロナウイルスの感染防止対策は続けながらも、消費者の活動が活発化すると予想される。
□	食料品製造業 (従業員)	・今まで業務用の受注が止まっていた取引先からは、注文が入りかけているが、まだ元の水準には戻っていない。
□	パルプ・紙・紙加工品製造業 (経営者)	・コロナ禍の影響で仕事の進め方も変わり、先が見通せない。
□	化学工業 (管理担当)	・自動車の電装関連の出荷が、今後も減少すると予想している。
□	金属製品製造業 (開発担当)	・生産量の減少が予想される。
□	一般機械器具製造業 (経営者)	・最悪の業況が回復する様子はない。
□	一般機械器具製造業 (設計担当)	・一般商品の値上げや原油価格の高騰で、家計の収支が悪化しそうである。
□	電気機械器具製造業 (宣伝担当)	・寒さが本格化する12月以降、新型コロナウイルスの感染第6波の到来が懸念される。
□	電気機械器具製造業 (営業担当)	・新規案件の部品の納期が大幅に遅れるため、取引先の要求する納期に間に合わず、受注を断念せざるを得ない。
□	輸送用機械器具製造業 (役員)	・搬送設備の新規生産ラインに関する問合せや、引き合い件数が増えているが、売上に反映されるのは6か月以上先となる。
□	建設業 (経営者)	・対面ではなく、オンライン営業が普通になったことで、全体的につかみどころのない状況となっている。この状況はしばらく続くと予想されるため、事業の再構築なども視野に入れていく必要がある。

	□	建設業（経営者）	・緊急事態宣言が解除され、経済が動き始めるが、コロナ禍で疲弊した企業からの設備投資は期待できない。部品不足で工期の問題が出てくるほか、建設資材の高騰で価格競争も厳しくなる。
	□	建設業（営業担当）	・直近数年の設備投資計画は実行されており、今のところは急激に落ち込みそうにない。
	□	司法書士	・ワクチン接種が進んだこともあり、緊急事態宣言の解除後も新型コロナウイルスの新規感染者数は減少を続けている。この状態が続けば、以前の状態に近づくとも期待しているが、時間は掛かる。
	□	その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・まだまだ景気は戻らない。
	□	その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・緊急事態宣言が解除されてから、まだ余り動きは見えないが、来年度は動きが出てくると期待している。
	□	その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響か、製品や材料の入荷が遅れており、それに伴って納期もかなり遅れている。
	▲	繊維工業（総務担当）	・急激な円安により、中国やベトナムからの輸入品の採算が悪化してきている。
	▲	繊維工業（総務担当）	・経費の掛かる販売方法が改善されなければ、コストが吸収し切れない。販売方法の見直しが急務となっている。
	▲	金属製品製造業（経営者）	・しばらくは部品不足の状態が続き、全体的に荷動きが減速する。
	▲	金属製品製造業（営業担当）	・特に自動車業界では価格改定に対する抵抗が強く、採算が急激に悪化傾向にある。
	▲	建設業（経営者）	・原油価格の値上がりもあり、ますます様々な資材価格が高騰する懸念が出てきた。今後の大型案件については、契約に慎重にならざるを得ない。
	▲	不動産業（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で、傷ついた不動産市場がまだ回復していない。補助金などの支給が年内で終わるため、年明け以降は倒産する企業が増える。その結果、3か月後の景気は悪くなる。
	×	化学工業（企画担当）	・食用油脂価格の高騰に収束の兆しがみえない。さらに、ガスなども高騰しているほか、鋼材などの設備投資関連もコストが上昇しており、採算の悪化が予想される。
	×	電気機械器具製造業（経理担当）	・電子部品の調達めどが全く立たないため、全ての計画が見通せない状況が続いている。この状況がいつまで続くのかによって、資金繰りにも大きな影響が出る。
	×	輸送業（営業担当）	・利益率の高い製造業関連の荷物が少な過ぎて、今月は利益がほとんど出なかった。来月も製造業関連の荷物は少ない。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染の収束時期や、収束後の展望が見通せない。
雇用 関連	◎	人材派遣会社（支店長）	・年度末に向けて、求人の動きが活発になると予想される。
(近畿)	○	人材派遣会社（役員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激減し、経済活動が持ち直してくると期待している。
	○	人材派遣会社（営業担当）	・ワクチン接種の拡大や、各種制限の解除により、景気が回復してくる。
	○	人材派遣会社（営業担当）	・今後は経済活動の活発化が期待できる。
	○	新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・緊急事態宣言が解除され、コロナ禍による悪影響も小さくなった。ワクチン接種率も上昇し、国や自治体のウィズコロナ関連の政策も、経済を回しながらの体制が整備されると予想される。それに伴い、景気はやや上向くとみられるが、冬場を迎えて、新型コロナウイルスの感染第6波の発生が確実視されるほか、新たな新型コロナウイルス変異株の感染拡大の可能性もあるなど、状況は流動的である。
	○	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染第6波の発生が懸念されるが、それがなければ回復に向かう。
	○	民間職業紹介機関（営業担当）	・今後2～3か月を含む年内については、来年度の採用に向けた学生向け広報として、企業のインターンシップや業界研究セミナーへの出展が増えると考えられる。ただし、学生の動きが鈍いため、現時点でイベントや企業セミナーへの参加者が少ない。年明け以降、広報機会を求めてイベントの出展や求人広告などを増やすのか、イベントは参加者が少ないと見込んで、出展を控えるのかはまだ分からない。

○	学校〔大学〕（就職担当）	・年末に向けた消費の回復を期待している。
□	人材派遣会社（経営者）	・リモートワークが浸透してきた影響で、適材適所で派遣スタッフが集めやすくなり、ミスマッチが少なくなっている。それに伴い、派遣先企業では少しでも良い人材を集めようという意欲が高まっており、良い人材がいれば、1人でも2人でも多く抱えておく意識が感じられる。このような雰囲気が今後も続くと思われ、派遣業界は好調を維持できそうである。
□	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・緊急事態宣言が解除となり、街に人は増えていると感じるが、海外の状況を見ても、このままコロナ禍が収束するとは思えない。景気が良くなる要素も、新型コロナウイルスの感染状況次第であり、その意味では変わらない。
□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・緊急事態宣言が解除されたとはいえ、まだまだコロナ禍の影響が続く。関西企業からの新聞広告の出稿など、宣伝プロモーション予算の削減が進んでいるため、景気は悪い状態が続くと予想している。
□	職業安定所（職員）	・有効求人数の増加など、企業の手不足感が強まっているものの、業種による差がみられる。また、パートや契約社員については、3か月ぶりに前年比で減少するなど、不透明感も強い。一方、有効求職者数は依然として高い水準にあり、先行きの不透明感から、再就職に際しては求職活動の長期化が懸念される。
□	職業安定所（職員）	・雇用調整助成金に係る相談や申請件数は依然として多く、景気の先行きは不透明な状況である。引き続き、新型コロナウイルスの感染状況を注視する必要がある。
□	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の激減や、ワクチン接種者の増加により、利用者からの感染への不安の声が減っている。
□	職業安定所（職員）	・8月の新規求職者の登録が前年比で10%の増加、9月も4%の増加と増えているが、新規求人数が底堅く推移しているため、求人倍率は余り変わらない。
□	民間職業紹介機関（職員）	・前年と比べると、求人数は徐々に増えている。その一方、建設業を中心とした人手不足もあり、求職者からの相談は伸び悩んでいる。求職者にとって魅力的な雇用条件の整備を、企業が早急に進める必要性が高まっている。
▲	民間職業紹介機関（営業担当）	・新型コロナウイルスによる特需が一旦落ち着き、例年よりも求人数が減少している。
▲	学校〔大学〕（就職担当）	・各種の制限が解除されつつあるが、どこまで回復するかは読めない。新型コロナウイルスの感染第6波の発生など、先行きは不透明である。
×	—	—